

## 議題2 売上高等を用いた層化抽出の検討について

### 前回研究会(令和4年11月)でのご意見

#### (全体的な方向性について)

- ・ 精度改善が期待できるが慎重な検証が必要
- ・ 層化はあまり細かくしない方がよい

#### (検証すべき事項について)

- ・ 売上高の安定性
- ・ 平均値の実数(水準)

#### 前回研究会試算

※法人企業統計の個票データ(提出分)を偽母集団として試算

### 標準誤差率(全産業) 2022年4-6月期結果

(単位: %)

	売上高			経常利益			設備投資		
	売上高層なし	売上高層あり	比率	売上高層なし	売上高層あり	比率	売上高層なし	売上高層あり	比率
1千万円以上 2千万円未満	5.1	2.9	-43.4	25.3	23.2	-6.1	13.2	11.7	-10.9
2千万円以上 5千万円未満	5.0	3.1	-39.9	14.1	13.2	-8.6	9.9	9.3	-5.6
5千万円以上 1億円未満	6.4	4.3	-33.1	12.7	10.7	-17.1	10.6	10.0	-5.9
1千万円以上 1億円未満	3.2	2.1	-37.8	9.6	8.7	-9.6	6.4	6.0	-7.8

売上高を用いて  
層化抽出の試算を  
行ったところ改善の  
傾向がみられた。

## 議題2 売上高等を用いた層化抽出の検討について

### ○試算方法

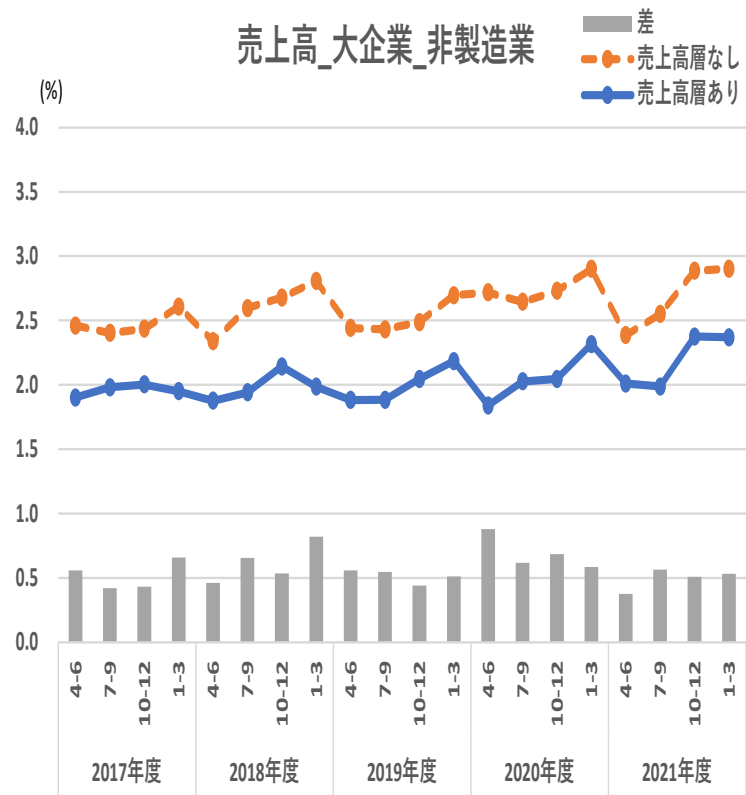
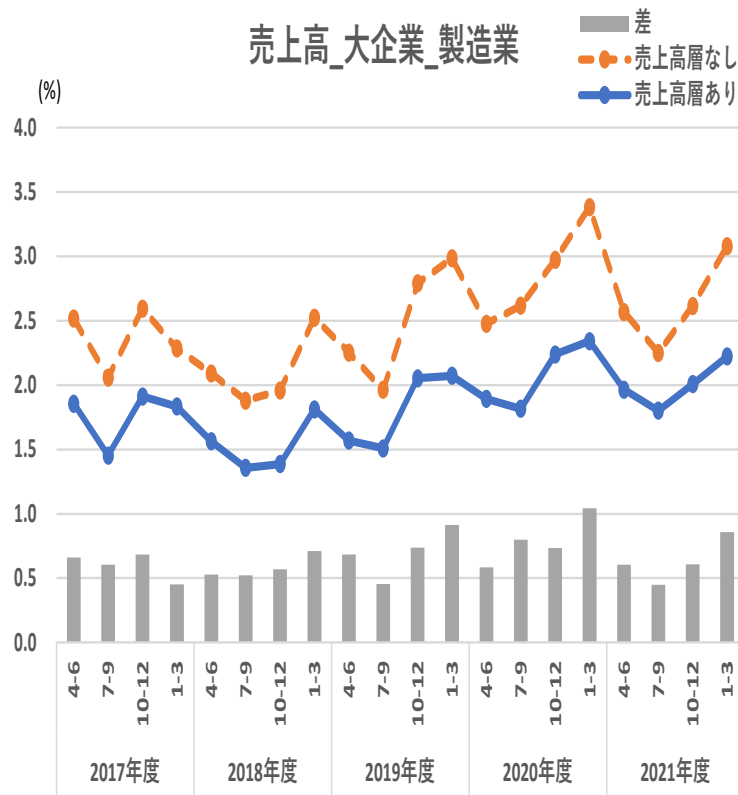
- 層化抽出に用いる売上高の参照時点を2017年度で固定し、2017年4-6月期～2022年1-3月期の各期の計数値及び標準誤差を推計し、標準誤差率を計算する。
- 参照時点の売上高は法人企業統計年報の個票データを用いる。
- 推計時点と参照時点の個票データを、FABNETシステムの法人IDでマージすることにより層化に用いる売上高を付与する。その際に、推計時点にはあるが参照時点にはない法人については売上高不詳として個票データに残す。
- 規模別(5層)業種別(45層)に、参照時点の売上高により下位9割、上位1割、売上高不詳の3層に分類し、 $5 \times 45 \times 3 = 675$ 層とする。
- 中堅企業及び中小企業は、毎年の標本交替により年次を超えたマージができず、売上高が不詳となる法人が多数発生する。一方で、大企業は悉皆調査のため、マージ不可による売上高不詳の大幅な増加は見られない。
- このため、試算は大企業について行い、その結果により層化の検証を行う。

法人数	売上高上位層	売上高下位層	売上高不詳
2017年4-6月期	461	4018	108(2%)
2022年1-3月期	392	3373	320(8%)

## 議題2 売上高等を用いた層化抽出の検討について

### ○試算結果 標準誤差率の推移(売上高)

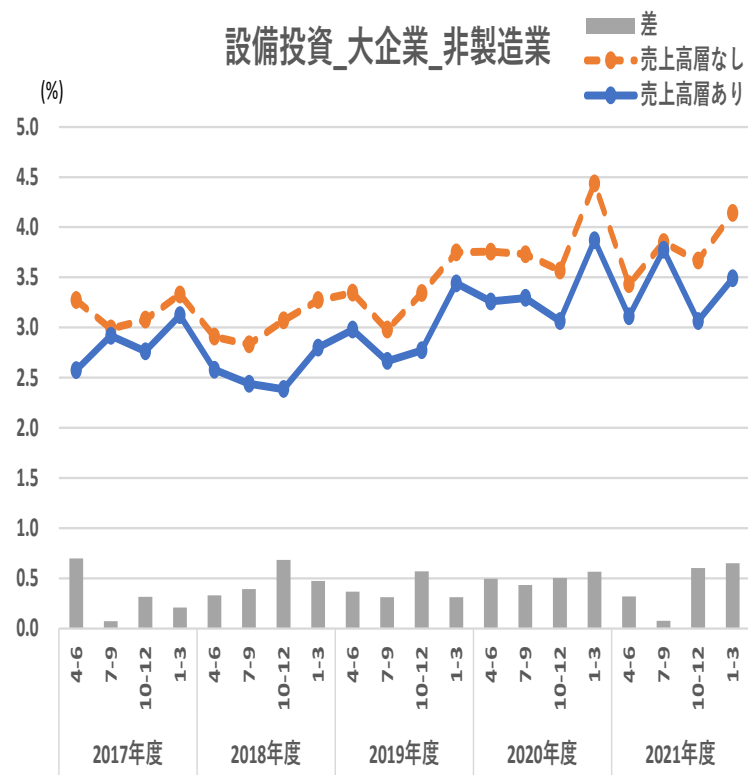
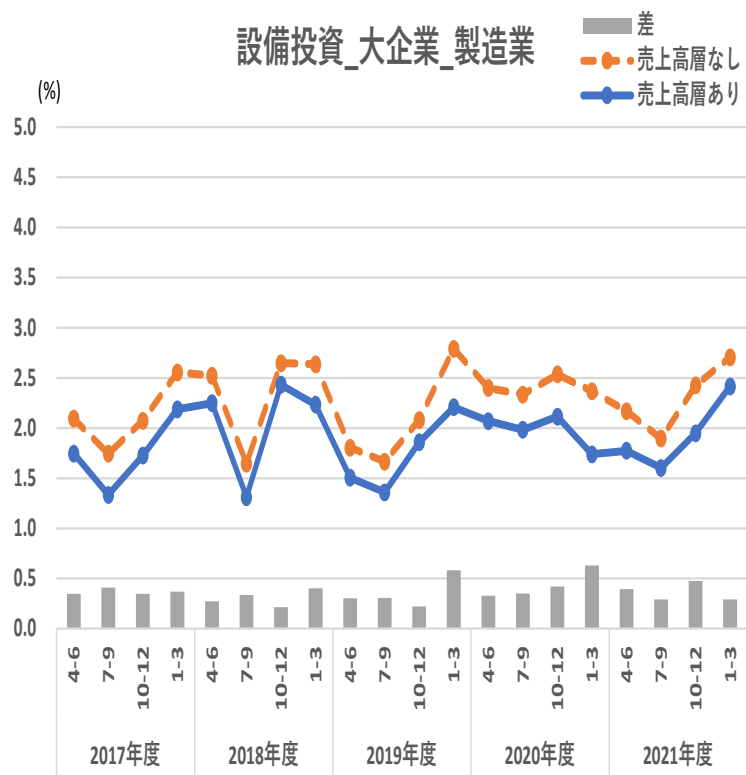
- 誤差率は期間を通して0.4～1.0ポイントの範囲で改善し、安定的に推移している。



## 議題2 売上高等を用いた層化抽出の検討について

### ○試算結果 標準誤差率の推移(設備投資)

- 誤差率は期間を通して0.1~0.7ポイントの範囲で改善し、安定的に推移している。



## 議題2 売上高等を用いた層化抽出の検討について

○試算結果 実数値の比較（売上高層あり÷売上高層なし）

- 売上高層のない推計値と比較した売上高の層化による推計結果は、概ね±0.2%の範囲内に収まった。また、売上高の層化による推計値の上下への偏りは見られなかった。

売上高\_大企業\_製造業



売上高\_大企業\_非製造業

